

## ◆ 平成27年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 エンハンスネイチャー 荒川・江川

代表者：理事長 小川早枝子

URL :

---

### 1. 活動が必要とされた状況

私たちの活動地江川下流域の「サクラソウトラスト地」には、絶滅危惧の生き物が50種以上生息しており、さらに「埼玉県希少動植物の種の保護に関する条例」に指定種が2種自生しています。この貴重な絶滅に瀕している自然を次世代へ伝え、荒川中流域へと広げていくためには、三ツ又沼ビオトープで行われている「荒川の草花を育てるプロジェクト」と協働して活動を行う必要があります。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

9月から11月までは週2回以上の外来植物駆除作業に励みました。10月31日にはトラスト地近くのグローバルコーティング(株)の全社員(40名)と上尾市職員で、爆発的に増えているトウグワ(外来種)駆除作業を行いました。11月からは春の原野を彩る植物たちのために週3~4回、ヨシ原の草刈り作業。12月13日には上尾市、埼玉大学等(70名)の協賛で刈草の運び出しを行いました。続いて野焼き。1月には冬鳥達のために水田んぼをつくるなど行い、延べ400名以上のボランティアで3月末までに冬作業を終わらせることができました。



「荒川の草花を育てるプロジェクト」への協賛としてノハナショウブやチョウジソウのを初めとした希少種の増殖活動を行いました。また増殖したサクラソウ500株の移植を行いました。

### 3. 活動の成果

トラスト地内と周辺の外来種は激減し、冬作業のヨシ刈り、野焼き、水田んぼ作り等も無事終わりました。団結して困難な活動を支えてくれたボランティアに感謝いたします。

水田んぼはイカルチドリなどの越冬鳥で賑わい、2月にはニホンアカガエルの産卵が行われました。数年間増殖したノハナショウブやコオニユリなどの希少植物は、春の出芽を待ち荒川中流域に移植されます。このように江川下流域の生物多様性を維持し、さらに生態系を広げてゆく活動を推進することができました。

### 4. 今後に残された課題

私たちの活動地周辺には耕作放棄地が増える一方です。この耕作放棄地には外来植物が広がるばかり。もし私たちがこれら周辺の外来植物を駆除しなければ、サクラソウトラスト地の自然は外来植物に制圧され次世代に伝えることはできません。

このように外来種対策を含めて、サクラソウトラスト地の自然を守る活動の継続するためにも、さらに多くのボランティアの協働と共にあらゆる機関からの資金的・精神的支援を期待してやみません。